

フ ァ イ ル 1

會 田 綱 雄

會 津 八 一

相 葉 有 流

青 木 月 斗

青 木 健 作

青 木 繁

青 木 存 義

青 野 季 吉

會田綱雄詩碑

所在地 東京都文京区荒川町三丁目 東國學院内

水を喝く

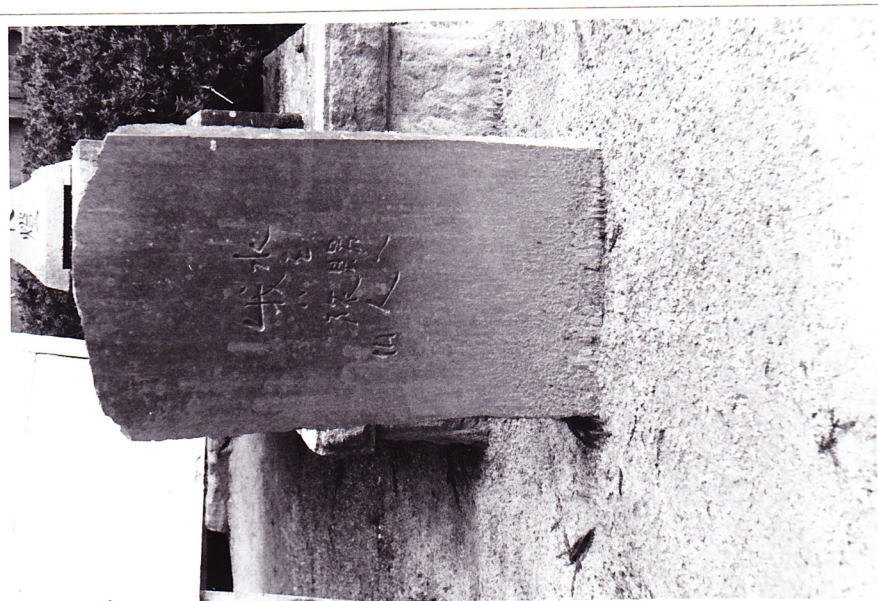
我ハ旅人

詩碑

詩碑

會田先生（東洋二生）
 中國ニテ草野心早先生ヲ知ル
 詩國同人、詩集編輯ニヨリテ
 第一回高村光太郎賞ヲ受ク
 仙臺書房刊 進元編輯 全誌
 先生ハ大久保道母博士ヲ以テ
 文壇ニ親睦生年々其支那詩山
 子ヲ賞メル 櫻痴
 昭和十

昭和十一年七月七日 東京府事務所
 文京区日本大学杜魚資料
 室 平塚（昭二）氏 収
 録



會津八一歌碑

所在地 東京都墨田区両国町東一丁目 古蹟寺境内

むねしののけ

ふはしる

ふゆきのの

にやうくも

いづれ

ある

かな

昭和八年

会津八一

昭和八年四月

墨田区両国町東一丁目

墨田区両国町東一丁目

墨田区両国町東一丁目



會田綱雄詩碑

所在地 福島県双葉郡川内村上川内三合田 29 長福寺境内

水を賜へ

我ハ旅人

綱

碑陰

會田先生ハ東京ニ生ル
中国ニテ草野心平先生ヲ知ル
歷程同人、詩集鹹湖ニヨッテ
第一回 高村光太郎賞ヲ受ク
筑摩書房 刊 道元禪師 全集
ニテハ大久保道舟博士ヲ扶ク
表記ハ昭和四十八年八月十九日当山
ニテ書カル 俊晃
しるす

略歴

大正 3 年 3 月 17 日 東京の本所に生まれ 日本大学社会学科を卒業
平成 2 年 2 月 22 日没す 享年 75 歳



會津八一歌碑

所在地 東京都練馬区関町東 1-4-16 法融寺境内

むさしののくさに

とはしる

むらさめの

いやしくしくに

くるる

あき

かな

すすきの図

秋艸

道人

左側面

願主 開基 釈信 願

昭和 35 年 11 月 21 日

渾斎同人建之

大和石工 喜多辨太郎



會 津 八 一 墓

所在地 東京都練馬区関町東 1-4-16 法融寺墓地内

秋 艸 道 人

碑陰

昭和 32 年 11 月 21 日

會津八一先生知友

門下生 有志 建之

所在地 新潟県新潟市西堀通 3-797 瑞光寺境内

渾 齋 秋 艸 道 人 墓

裏面

文字なし

略歴

會津八一は秋艸道人 渾齋などとも号し 明治 14 年 8 月 1 日
新潟市古町通 5 番地に生まれ 東京専門学校英文科を卒業
昭和 31 年 11 月 21 日歿す 享年 75 歳 法名 渾齋秋艸道人



會津八一墓

所在地 東京都練馬区関町東二由 法融寺墓地内

秋 艸 道 人

裏面

昭和元年十二月廿日
會津八一先生知友
門下生有志建之

所在地 新潟県新潟市西堀通三左右 瑞光寺境内

渾齋秋艸道人墓

裏面

文正元年



會津八一畫記念碑

所在地 新潟県新潟市健ヶ山三番 浅川晟一氏宅庭内

音のくさ

暮れて

あまのかせに

おとろき

秋のかせ

やみまじり

はるのくさにも

なれり

碑陰

會津八一先生は、明治二十九年（一九一六年）に新潟市健ヶ山三番に浅川晟一氏の宅内に、會津八一畫記念碑を建立せられた。此の碑は、會津八一先生の遺墨によるもので、その内容は、會津八一先生の自伝である。この碑は、會津八一先生の遺墨によるもので、その内容は、會津八一先生の自伝である。

碑陰

昭和三十年十月一日
新潟大火において、杜屋
全焼の折、秋村道人
會津八一先生より賜りま
し、十水物語 卷十一
讀みぬ一節、
御尊厳百年を記念し、
この碑を建立します。
昭和庚午年九月廿日
浅川晟一謹書



會 津 八 一 (書) 記 念 碑

所在地 新潟県新潟市姥ヶ山 1175 浅川晟一氏宅庭内

春のくさ

暮れて

あきのかせに

おとろき

秋のかせ

やみてまた

はるのくさにも

な れ り 印

碑陰

昭和 30 年 10 月 1 日
新潟大火において、社屋
全焼の折、秋 艸 道 人
會津八一先生より賜りま
した、平家物語 卷十一
『逆櫓』の一節。
御生誕百年を記念し、
この碑を建立します。

昭和 56 年 5 月 6 日

浅川晟一謹書



の

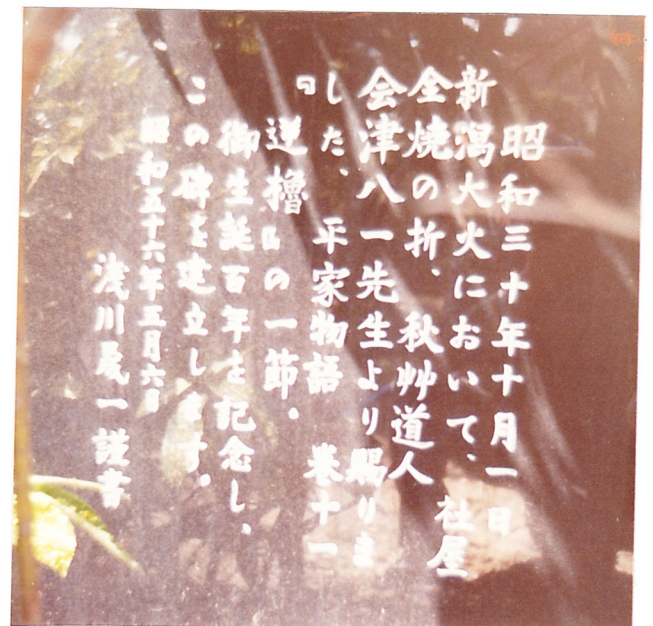
春



鑑

の

まづのくさ 秋のかせ



會津八一歌碑

所在地 新潟県新潟市一番堀通九三六 県立図書館前

みやこへをのかれきたれば

ねもころに

しばうちをする

ふもとのほま 八一

碑陰

昭和庚寅秋紳遺人民壽古稀
同郷知友誌資協力利石留芳



會津八一歌碑

所在地 新潟県新潟市女池 県立図書館前

みやこへをのかれきたれは

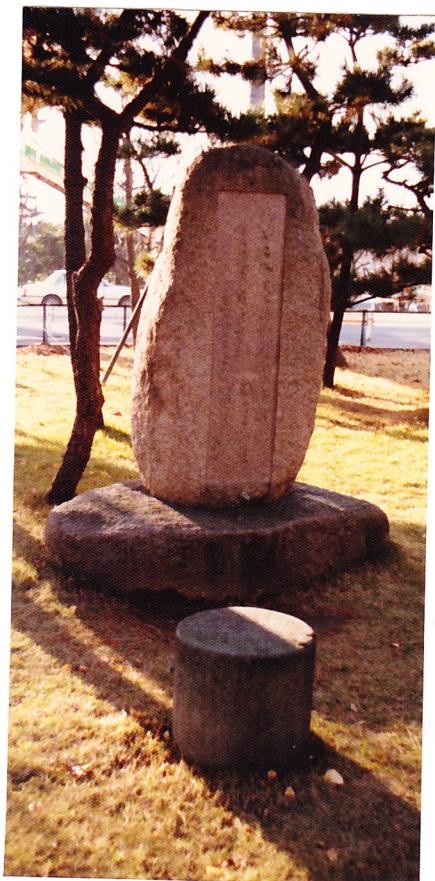
ねもころに

しほうちよする

ふるさとのはま 八一

碑陰

昭和庚寅秋艸道人長壽古稀
同郷知友釀資協力刊石留芳





會津八一歌碑

所在地 新潟県新潟市南浜通二番町 562 北方文化博物館分館庭内

かすみたつ

はまのまさこを

ふみさくみ

かゆき

かくゆき

おもひそわか

する

秋艸道人

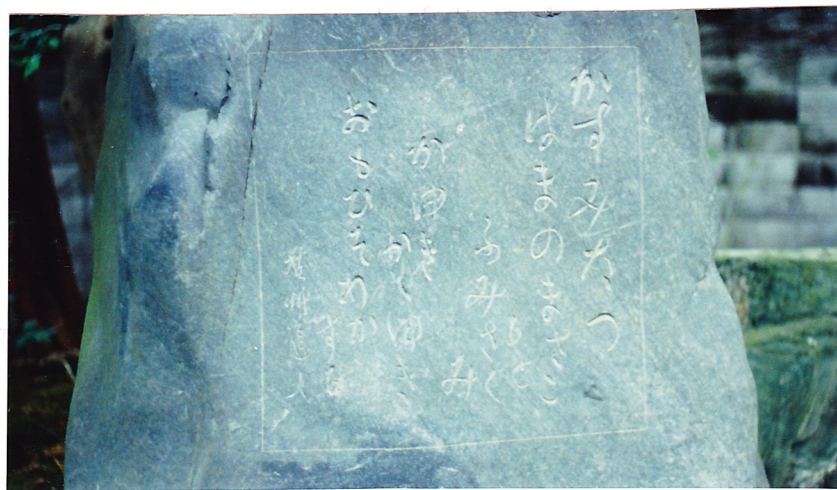
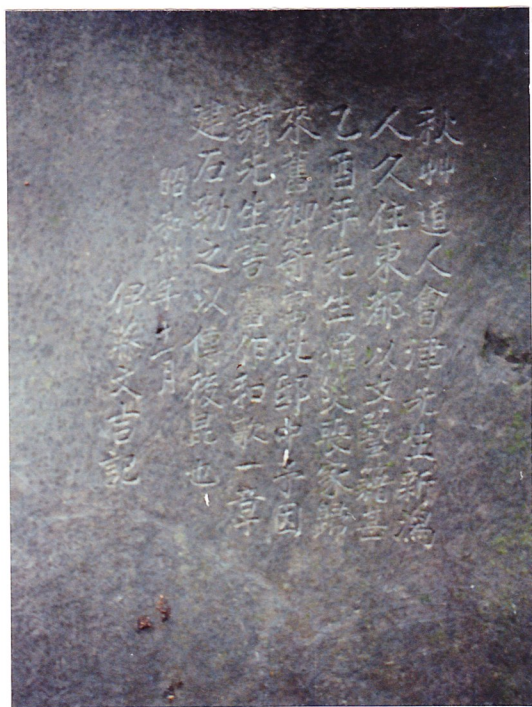
碑陰

秋艸道人會津先生新潟
人久住東都以文藝籍甚
乙酉年先生罹災喪家歸
來舊鄉寄寓此邸中予因
請先生書舊作和歌一章
建石勒之以傳後昆也

昭和 30 年 11 月

伊藤文吉記

会津八一の住んでいた洋館 →



→ 会津八一の歌碑

↑

會 津 八 一 歌 碑

所在地 新潟県新潟市西船見町字浜浦 5932 會津八一記念館前

おりたては

なつなほ

あさき

しおかせの

すそふき

かへす

ふるさとのほま 朔

碑陰

第 27 回年次大会を記念し之を建つ

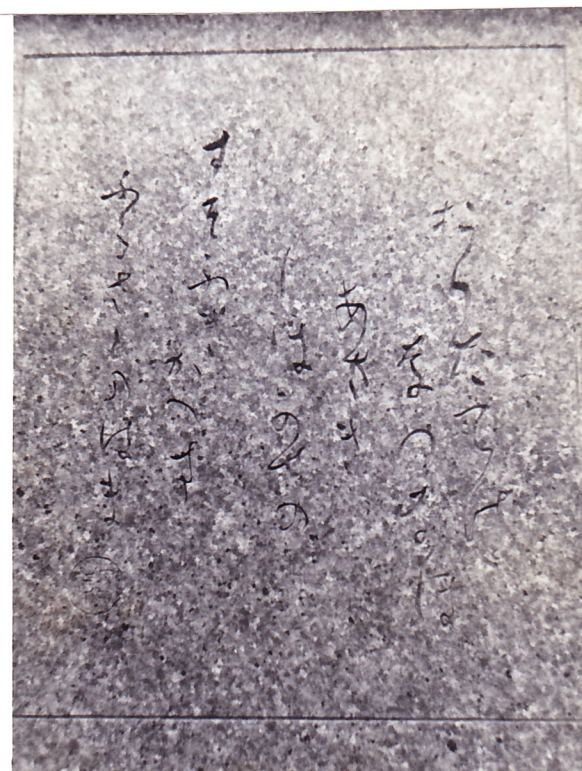
1982 年 4 月 26 日

ライオンズクラブ国際協会

533-A 地区がバナー 風間久雄



会津八記念館
←



會津八一歌碑

所在地 新潟県新潟市西船見町字浜浦五三 會津八一記念館前

おひつては

なつなは

あそび

しほもも

すけり

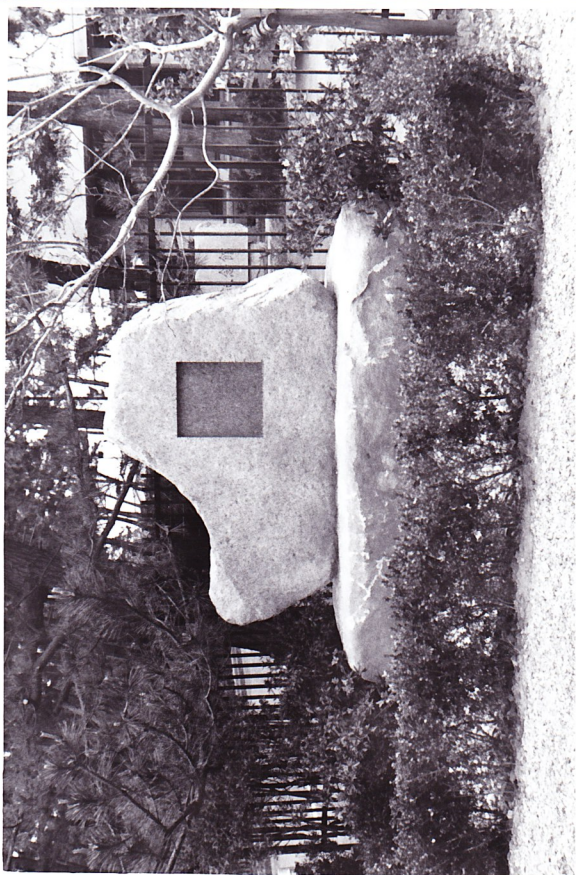
かや

おひつては



附録

附録



會津八一歌碑

會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一

會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一

會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一

會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一

會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一

會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一

會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一 會津八一



會 津 八 一 歌 碑

所在地 新潟県新潟市関屋下川原町 2-635 県立新潟高校正門内

新年同詠船出

應制歌

會津八一 上

ふなひとははやこ

き

いてよふきあれし

よひ

のなこりのなほた

か

くとも

碑陰

昭和 47 年 10 月 12 日

新潟高等学校創立 80 周年記念

會 津 八 一 歌 碑

所在地 新潟県新潟市古町通五番 生家跡

新潟の濱にて

ふるさとのはまのしろすなわかきひを

ともにふみけむともをしぞおもふ

八一

會津八一生誕の地

碑陰(横書き)

昭和 61 年 11 月 16 日

新潟八千代ライオンズクラブ

20 周年記念 建立

(48 名列記)(略)

會津八一歌碑

所在地 新潟県新潟市古町五番町(五差平生) 生家跡前

新潟の濱にて

ふるさとのはまのしろすなわがきりを

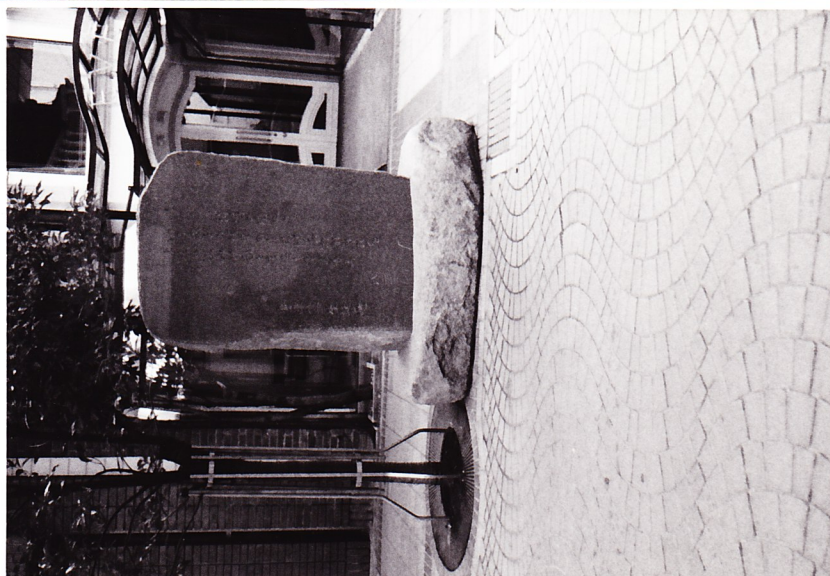
いふにふみけむともをしぞおもふ

八一

會津八一 生誕の地

昭和51年11月16日
八十年代ライオンズクラブ
20周年記念 建立

48名列記
(略)





會 津 八 一 歌 碑

所在地 新潟県新潟市西堀通 3-797 瑞光寺境内

ふるさとのふる

江

のやなきはかく

れに

ゆふへのふねの

ものかしくころ

乙酉九月十日於清
行菴 秋艸道人
録 旧 製 一 首

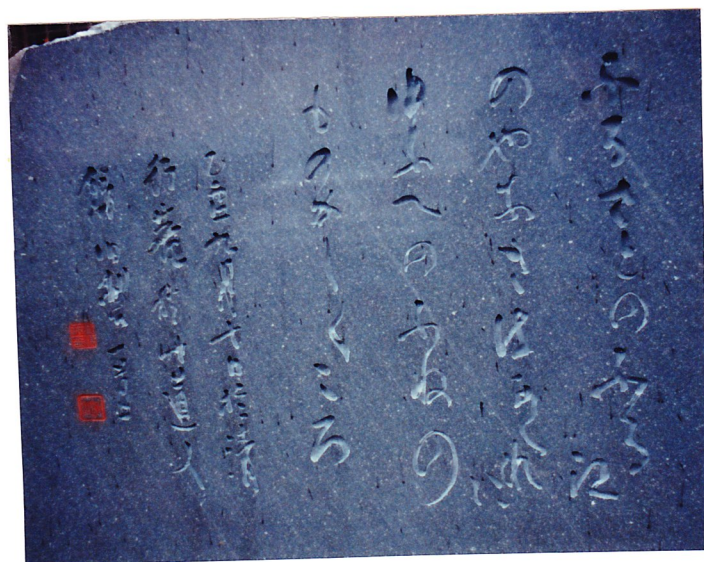
碑陰

會津八一先生を景仰する秋
草會が発足して三年 三十三
回忌を機に 故郷を詠まれた
歌碑の建立を企画した

この歌は 昭和二十年乙酉
九月十日 養女キイ子供養の
ために 中条町から 瑞光寺
に詣で 帰路 伊藤辰治氏の
茶室 清行庵で揮毫された
大正のころの 西堀の風情が
しのばれる

平成元年六月

秋 艸 會



會津八一歌碑

所在地 新潟県新潟市関新2丁目 千歳大橋の欄干

よをこめて

あか

くみはなち

おほかはの

このてるつきに

ふなてすらしも

新潟市名誉市民
會津八一(1881年-1956年)
渾斎 秋艸道人 と号す

碑陰

文字なし



の刻文は



會津八一歌碑

所在地 新潟県新潟市・千歳大橋の欄干

いもむこめて

あか

くぬはなち

おきくはの

いひはなち

あなてきり

お

会津八一の歌碑
新潟県新潟市千歳大橋の欄干

他面
文字なし



會津八歌碑

所在地 新潟県北蒲原郡豊浦村天王三基 市島邸の境内

天皇陛下を迎へ

まつるとて

會津八一

碑誌

文字なし

あちのくのきぐさの

つゆにたち

ぬれて

わがおもひを

まつたとてまつる

こはみちのめぐりま

して

しづかろ

しづかにぬに

たかきかろ

こはなるもたかにはたてる

あちのめぐり

しづかにぬに

たかきかろ

ゆめ



會津八一歌碑

所在地 新潟県新発田市豊浦町天王 1563 市島邸の庭内

天皇陛下を迎へ
まつるとて
會津八一

みちのへのをぐさの
つゆにたち
ぬれて
わかおほきみを
まちたてまつる

くにみすめめぐりいま
して
しなさかる
こしのあらぬに
たたすけふかも

いねかるとたなかにたてる
をとめらが
うちふるそでも
みそなはし
けむ

碑陰

文字なし

A photograph of a traditional Japanese shrine complex. In the foreground, a large, ancient pine tree stands on the left, casting shadows. A low, white stone fence runs across the middle ground. Behind the fence, there are several wooden buildings with dark, tiled roofs. A prominent white stone monument stands near the center. The background is filled with more trees and a bright sky.



← 市郊 庭園

天目王降下と仰る
 是等の事どもに
 會津ハ
 手取のへりともての
 つゆにたわぬれて
 かねたほさきと
 うきたてまひり
 くらひとめりいふ
 一なるさ
 ことのあらぬに
 へりけしうも
 ためとんたかたすも
 ともあひか
 みきそけし
 けい

會 津 八 一 歌 碑

所在地 新潟県胎内市中条町西条町 1-74 大総寺門前

ひそみきてたかうつ

かねそ

さよふけて

観音

ほとけも

観音の

堂に

ゆめに

座像図

やとりて

いり

秋艸道人

たまふ

ころ

碑陰

昭和 53 年戊午歳 11 月 21 日建之

歌 碑 建 立 委 員 会



會津八一歌碑

所在地 新潟県北蒲原郡中条町西条二丁目 大徳寺門前

ひそみきてたかみち

かねそ

こゝろふけて

はまけり

ももた

ひり

たまふ

こゝろ

観音

観音

堂に

多しりし

の

観音

碑文

昭和五年戊午臘十月二十日建立

敬母堂立役氏会



會津八一歌碑

所在地 新潟県北蒲原郡北条町西条町三七、丹吾嶋平墓院内

ふるさとこのま

懐しの

いにしへの

おぼろ

きりり

かみりたの

こと

こはるは 西條もあは
 方に寄寓してその難の
 上にてよめる歌の一
 なり 秋村道人
 建立

神陰

昭和癸亥五月

丹吾嶋平 謹

津野重一刻

昭和癸亥二月



會 津 八 一 歌 碑

所在地 新潟県胎内市中条町西条町 13・7 丹吾協平氏宅庭内

ふるさとのこのま

涼しも

いにしへの

おほき

ひしりの

からうたの

こと

こは災後 西條 丹吾氏
方に寄寓してその庭の
上にてよめる歌の一
なり 秋艸道人

八月二十三日

碑陰

昭和癸亥春五月

丹吾協平建

津野重一刻

(注)昭和癸亥=58年



おばき



おばき



會 津 八 一 歌 碑

所在地 長野県上高井郡高山村山田温泉 3598 「風景館」前

さるころしなのゝくにゝてよめるうた
かきりなき みそら の はてを

ゆくゝもの

いかにかなしき

こゝろなるらむ

秋 艸 道 人 朔

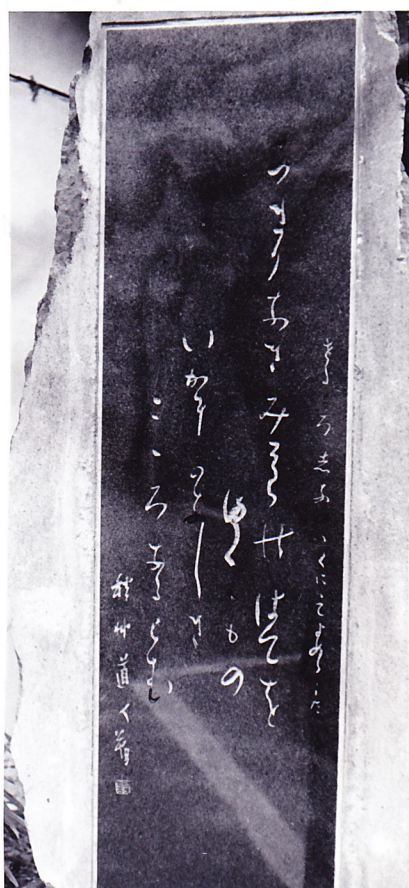
碑陰

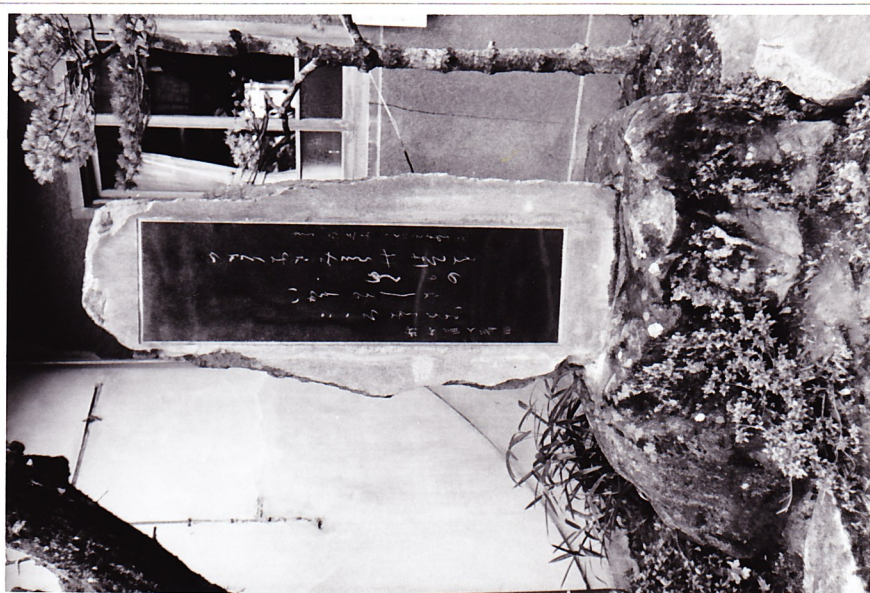
山田温泉は 長野縣 豊野驛の
東四里の谿間にあり山色浄潔
にして嶺上の白雲も以て餐ふべきを
おもはしむかつて憂患を懷きて
此所に来り遊ぶこと五六日にして
歸れり 爾来潭聲のなほ耳に
あるを覚ゆ 秋艸道人山中高歌による

昭和庚戌七月上浣

関谷小四郎建之

(注)庚戌=45 年

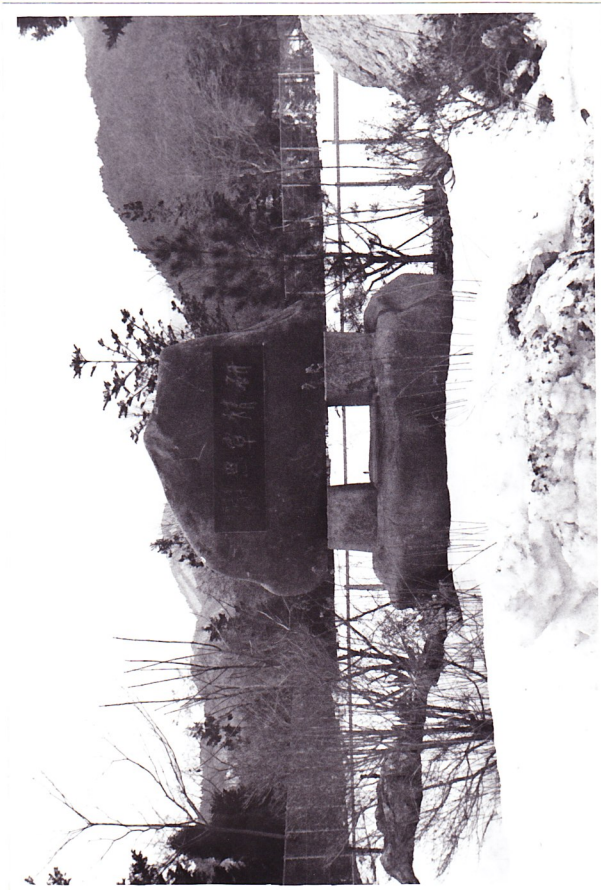




會津八一詞碑

所在地 長野県東筑摩郡朝日町古見三沢 中央公園前

研究員 恩田隆



碑文

会津八一翁は
明治二十二年二月四日
和歌山に生れ、和歌山
大学を卒業し、和歌山
大学文学部教授として
和歌山に居た。昭和
二十二年二月四日、和歌山に於て歿す。享年七十有九。

昭和五十二年四月
朝日町立朝日公園
会津八一翁追善会

會津八一詞碑

所在地 長野県東筑摩郡朝日村古見 1286 中央公民館前

研 精 覃 思

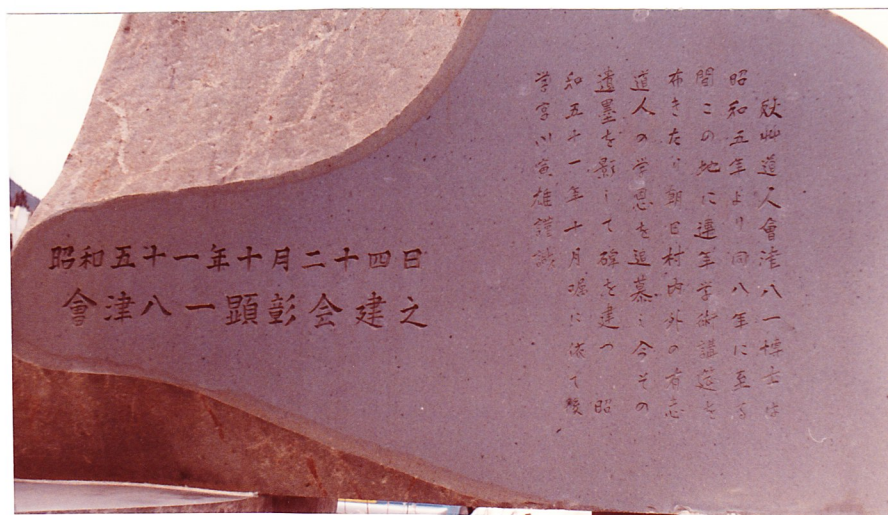
庚午
十二月
秋艸道人
題

碑陰

秋艸道人會津八一博士は
昭和五年より同八年に至る
間この地に連年學術講筵を
布きたり朝日村内外の有志
道人の学恩を追慕し今その
遺墨を影して碑を建つ 昭
和五十一年十月囑に依て後
学宮川寅雄謹製

昭和五十一年十月二十四日
會津八一顕彰会建之

(枠内は横書き)



會津八一句碑

所在地 長野県北佐久郡軽井沢町追分 泉洞寺墓地内

さるひとの

なにを

いひ

けむ

秋の風

秋 艸 道人

碑陰

一九九〇年九月

森口貞子建之



風 〇 燈

人 眞 轉 為



會津八一翁碑

所在地 長野県北佐久郡軽井沢町にある 奥の細道

ふるさと

なにも

いひ

けむ

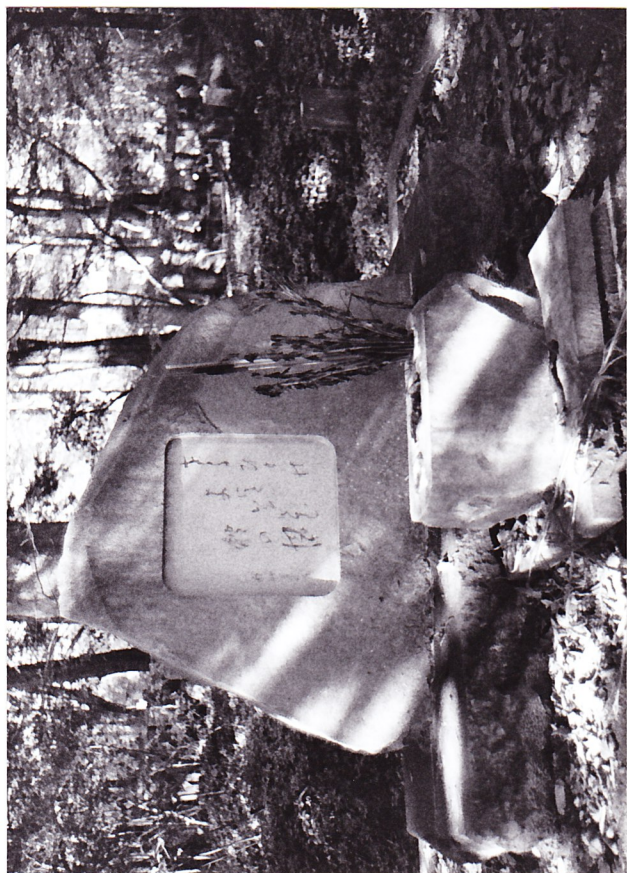
秋の風

秋の風

碑文

一九九〇年九月

松口重子謹之

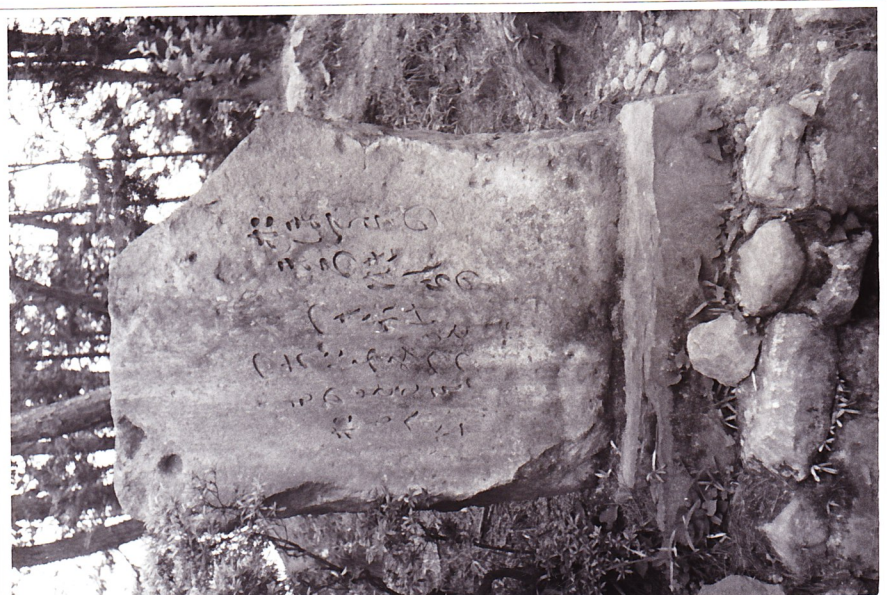
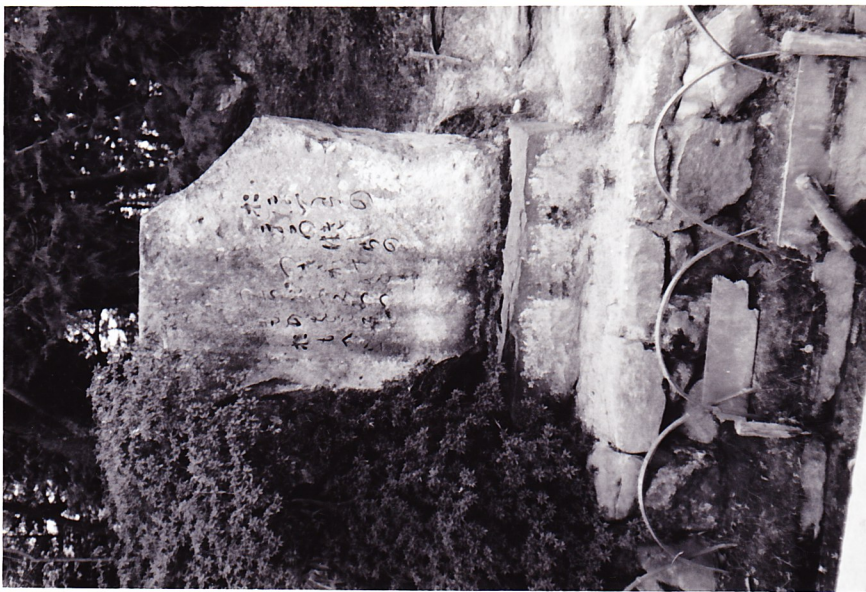


會津八一歌碑

所在地 奈良県奈良市五條町三契 曹洞禪寺境内

碑文

昭和庚寅仲秋
會津先生古稀
祝賀会 建之
(主) 關西關西王草



會津八一歌碑

所在地 奈良県奈良市五条町 13・46 唐招提寺境内

おほてらの

まろき

はしらの

つきかけ

を

つちにふみつつ

ものをこそ

おもへ

八一

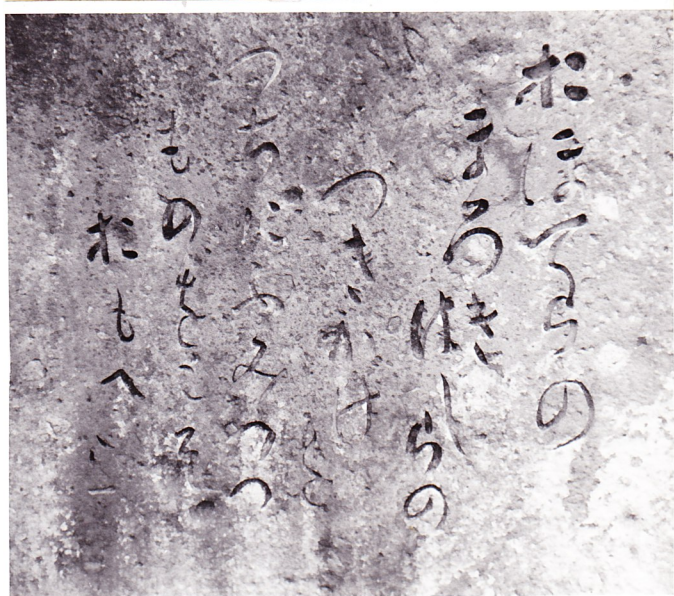
碑陰

昭和庚寅仲秋

會津先生古稀

祝賀会 建之

(注)昭和庚寅=25 年



甘代考

金堂
↓

金堂

宝蔵 ↓

経蔵 ↓

経蔵 ↓

金堂

金堂

↓ 講堂

↓ 鼓樓

↓ 礼堂



會 津 八 一 歌 碑

所在地 奈良県奈良市雑司町 406 東大寺中門前

おほらかにもろてのゆひをひらかせて

おほきほとけはあまたらしたり 八一

碑陰

昭和庚寅秋艸道人長壽古稀

嶋中雄作紹承遺願刊石留蹤

(注)昭和庚寅=昭和 25 年



大仙殿
←

大仙殿
↓



正倉院の門



転害門
←



會津八一歌碑

所在地 奈良県奈良市錦町 東大寺 中門前

四〇五

おはなはまてきてひらへるはるのちせし
おはなはまてきてひらへるはるのちせし

碑文

昭和庚辰三月増入東大寺七福
中門前八幡宮境内に設置
正 昭和庚辰三月増入東大寺七福



會津八一歌碑

所在地 茨城県水戸市東千町三 会津孝雄氏 墓地の前

なみえのりいふはらけのおとがら

いれぬなるるけるけきじけり

碑文

文字は



會津八一歌碑

所在地 奈良県奈良市般若寺町 221 般若寺寺務所前

ならさかのいしのほとけのおとかひ

に

こさめなかるるはるはきにけり

八一

碑陰

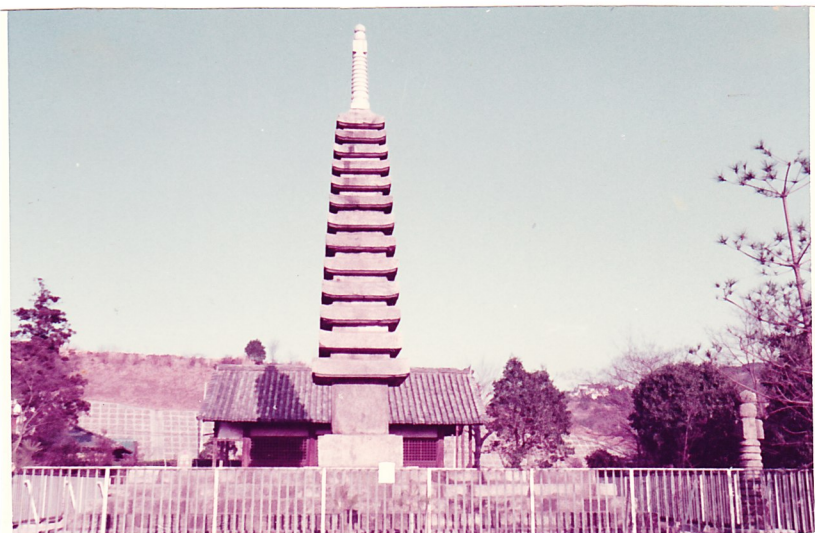
文字なし

夢塔婆(2塔) (字文) ↓

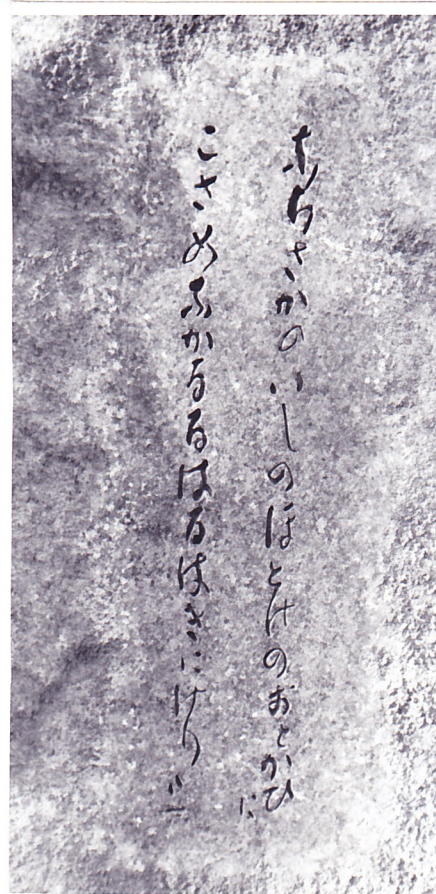




楼門
←



十三重石塔
←





般若寺樓門(重文) 十三重石塔が見える

→ 十三重石塔(重文)



會津八一歌碑

所在地 奈良県奈良市法華寺北町 897 海龍王寺境内

しくれのあめ いたくなふりそ

こんたうの

はしらのまそほ

かへになかれむ 秋艸道人



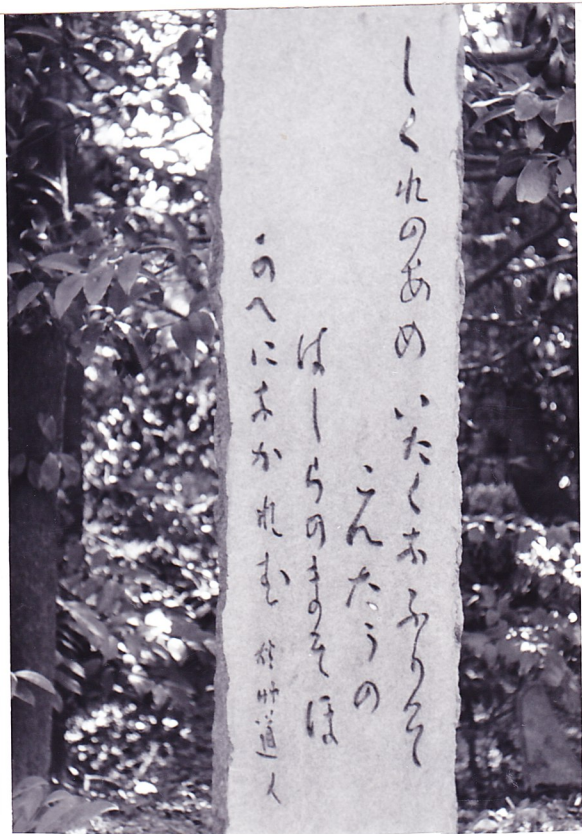
碑陰

文字なし

本堂
←



西金堂
←



西金堂
←

會津八一歌碑

所在地 奈良県奈良市法華寺北町念三 浄土宗境内

しぐれのあめ いたくなもりぞ

神楽

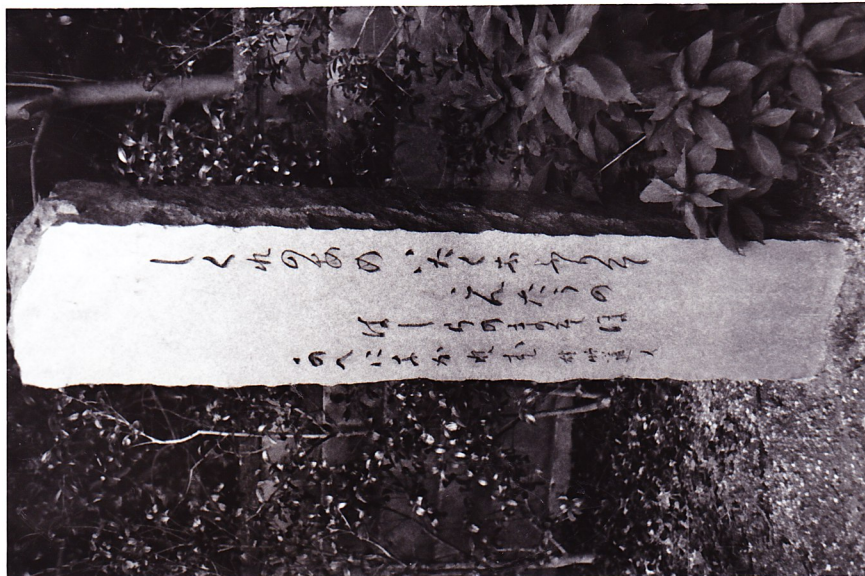
いんだうの

文字なし

はしらめまへは

あへになもれむ

歌碑主人



會津又歌碑

會津町 伊豆郡赤松町花 赤松寺境内 正門前

あましのりえりえり

にいてかくりえりえり

はてし

ひさしめりえり

会津

昭和庚辰

(左) 昭和庚辰



會津八一歌碑

所在地 奈良県奈良市秋篠町 757 秋篠寺境内

あきしのみてらを

いててかへりみるいこま

か

たけに

ひはおちむとす 八一

碑陰

昭和庚戌

(注)昭和庚戌=45 年

會津八一歌碑

所在地 奈良県奈良市法華寺町 882 法華寺境内

ふちはらの おほききさを

うつしみに あひみることく

あかきくちひる

法華寺にてよめる 秋艸道人

碑陰

昭和四十年十一月三日

入江泰吉 光枝 建之



會
南
本



唐風呂
←

會津八一歌碑

所在地 奈良県奈良市法華寺町八一 法華寺境内

もちはらの ぶはきもたきね

いつしふにあひなることく

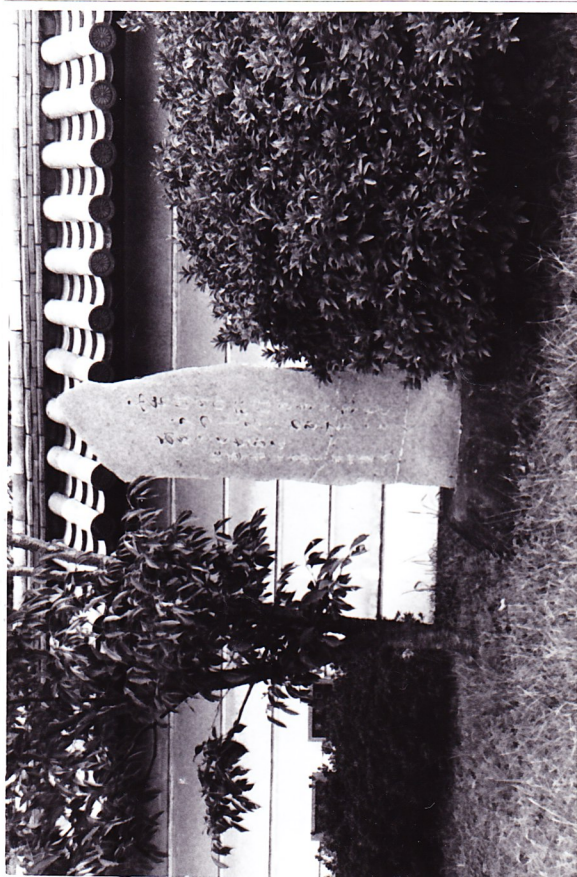
あはれくちなる

会津八一 歌碑建立人

碑文

昭和四年七月日

人江 敬之 建立



會津入歌碑

所在地 茨城県水戸市香取町1-2 水戸市歴史博物館

かすかのじふしんりんりん

いふふふふ

いふふふふ

いふふふふ

歌碑

碑文

文書



會津八一歌碑

所在地 奈良県奈良市春日野町 160 万葉植物園内

かすかのおおしてるつきの

ほからかに

あきのゆふへと

なりにけるかも

秋艸道人

碑陰

文字なし



おのころのたて

人形神



會津八一歌碑

所在地 奈良県奈良市福井町 1352 新薬師寺境内

ちかつきてあふき
みれともみほとけ
の
みそなはす
とも
あらぬさひしさ
秋艸道人



新薬師寺山門と金堂↓

碑陰

昭和十七年四月 嶋中雄作建立

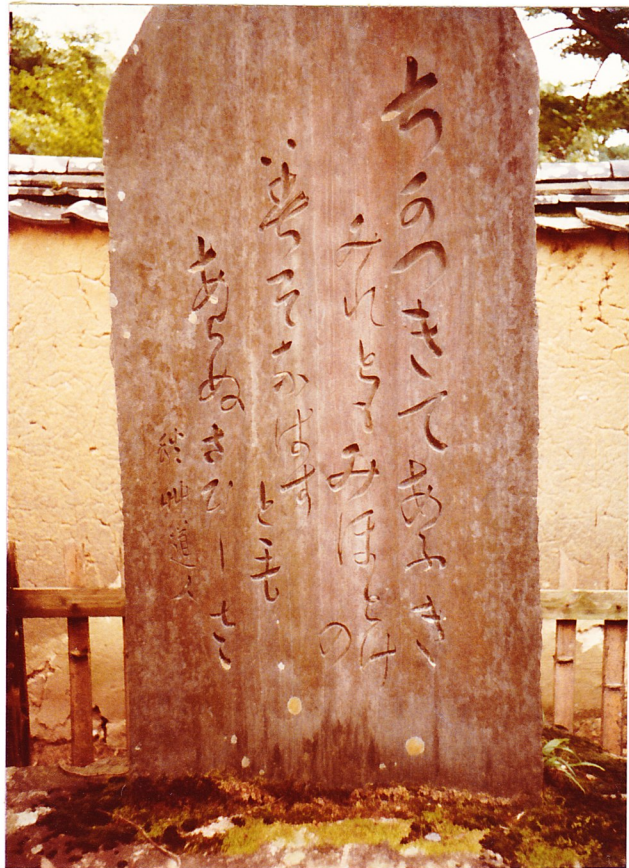
こん
金堂



鐘
鼓樓

(櫓干が平の力が特長)





ちんちんちんちん

人証神林



白鶴



白鶴

會津八一歌碑

所在地 新潟県佐和田市柳井町三三 町裏御舟橋南

おれつきてあふえ

昭和

おれももれもつ分

昭和七年四月 中野作題

なまなはす

おれももれもつ分

おれももれもつ分



會津八一歌碑

所在地 奈良市東大寺区 百舌門 境内

碑文

明治十一年

百舌門井ノ口村人建之

(注) 歌士 山崎龍溪氏



會 津 八 一 歌 碑

所在地 奈良県奈良市登大路町 59 「日吉館」庭内

かすかのゝ

よを

さむみかも

さをしかの

まちの

ちまた

を

なきわたり

ゆく

秋艸道人

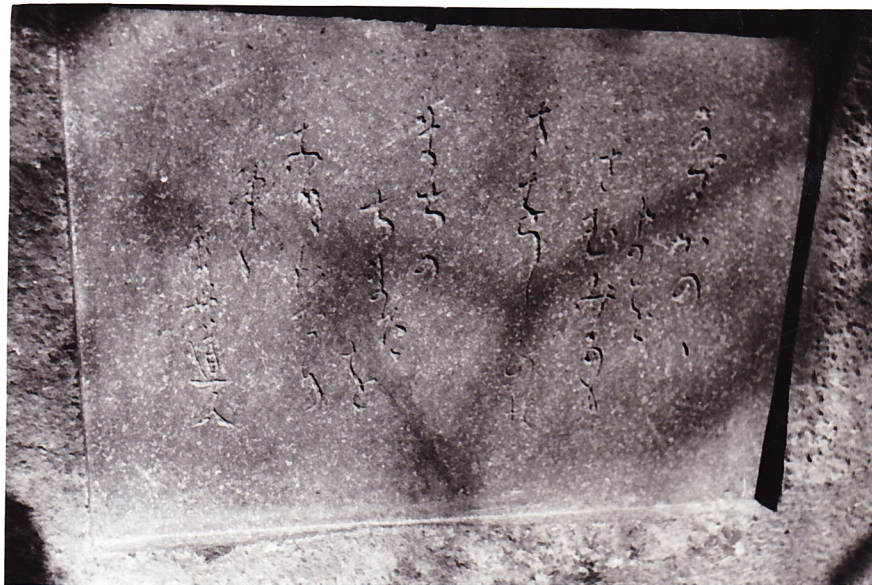
碑陰

癸丑十二月

日吉館并渾斎同人建之

(注)癸丑=昭和 48 年

↓ 日吉館



← 奈良女子大学本館

會津八一歌碑

所在地 奈良県生駒郡斑鳩町三井 1571 法輪寺境内

くわんのんの

しろき

ひたひに

やうらくの

かけうこ

かし

て

かせわたる

みゆ

秋艸道人

碑陰

文字なし



のうささ
こささ
うさ
う



法輪寺三重塔
幸田文さん建立

會津八一歌碑

所在地 奈良県生駒郡斑鳩町三井五三 法興寺境内

くわんのんの

しろき

ひたひに

やうやくの

かけき

かし

かきわたる

あゆ

秋州逸人

碑文

又平次



會津八一歌碑

歌碑は、本館前、昭和町通、会津八一の、原野町氏宅前

あめつちにもれがもりもて

たつたもて

いのちのつちもて

あめつちにもれがもりもて

歌碑 會津八一

昭和

昭和 大平 昭也

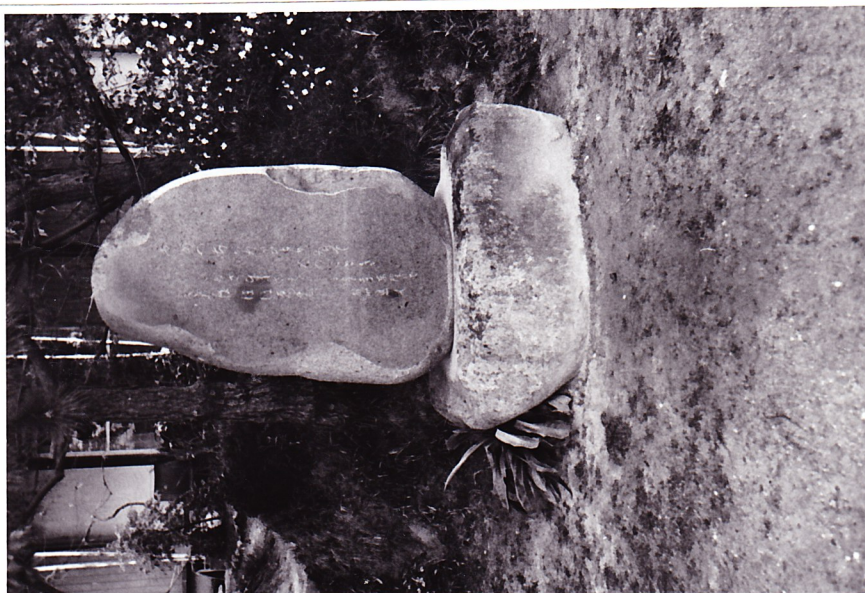
昭和 昭也 昭也

昭和 昭也 昭也

昭和 昭也 昭也

昭和 昭也 昭也

昭和 昭也 昭也



會津八一歌碑

所在地 奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺北 1・10 原与司明氏宅前

あめつちにわれひとりゐて

たつことき

このさひしさを

法隆寺東院にて

きみはほほゑむ

秋艸道人

碑陰

聖徳太子報恩

昭和54年5月16日

玉泉 原与司明 光子建之

撰並書 宮川寅雄

刻工 太田重喜



會津八一歌碑

所在地 大阪府大阪市天王寺区四天王寺 1・11 四天王寺 聖霊院中庭

うまやとのみこの

みことはいつの

よの

いかなるひとか

あふかさらめや

會津朔并題

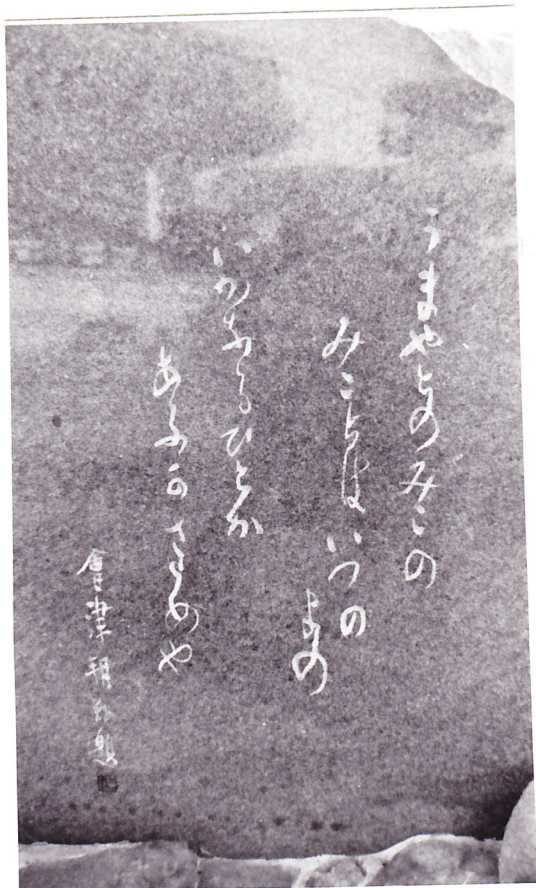
碑陰

四天王寺聖霊院繪堂

聖徳太子御繪傳障壁画奉納記念

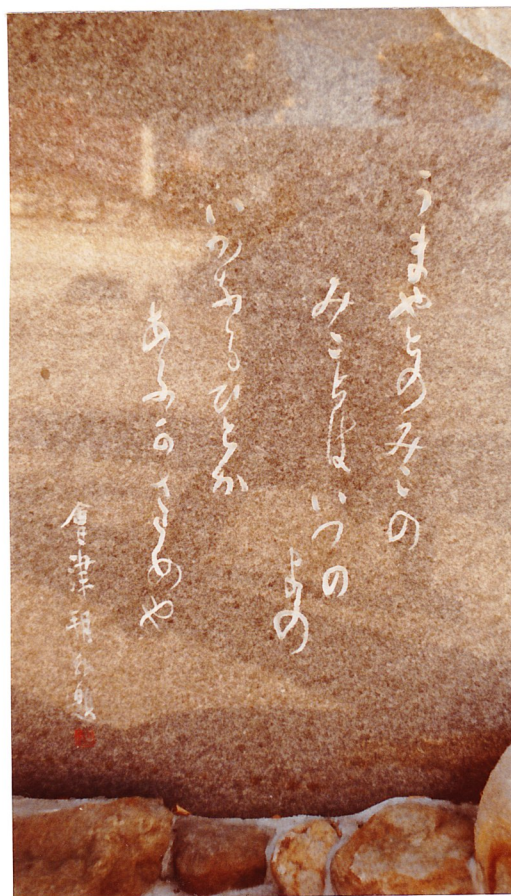
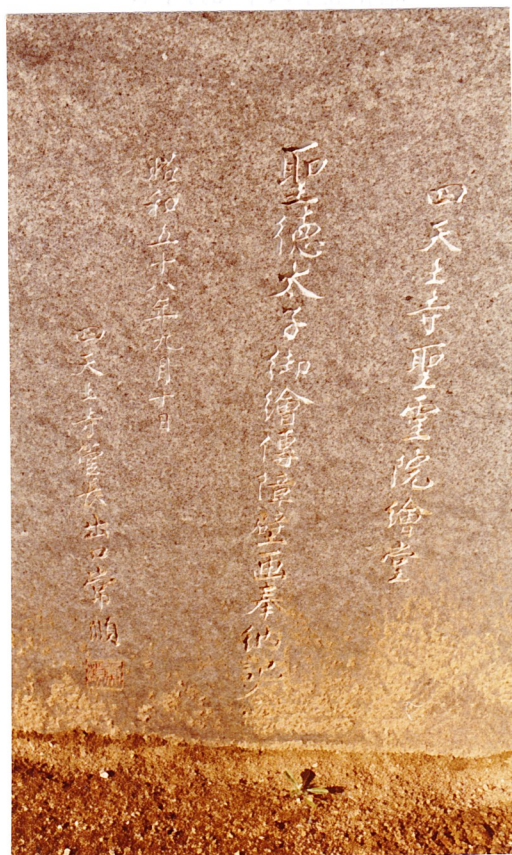
昭和五十八年九月十日

四天王寺管長 出口常順



いまだとのみの
 みのとにうの
 いちうひと
 あふらふ
 唐土寺刊

唐土寺



會津八一歌碑

所在地 大阪府大阪市天王寺区四天王寺上、四天王寺境内 建立年

うまやこのみこの

なことはいつの
もの

いかなるむとが

あふかきうめや

會津朔邦題

碑文

昭和五十七年四月

昭和五十七年四月

昭和五十七年四月

昭和五十七年四月



會津八一歌碑

所在地 青川県木田郡牟礼町五采 五剣山八栗寺鐘樓の梵鐘

五剣山八栗寺の
鐘は戦時供出し
空しく十餘年を
経たり今ここに
昭和廿九年十一月
廿二日僧正新に之
を献じとし予に
ももきつりら一
の鐘を寄すも
聖觀世音菩薩の
寶前に捧ぐきの
私に曰く
わたつみの
そこゆくりをの
ひれにさへ
ひりけこのかね
のりのためにな
ん

注 其他文字なし



會 津 八 一 歌 碑

所在地 香川県高松市牟礼町 3416 五剣山八栗寺 鐘楼の梵鐘

五剣山八栗寺の

鐘は戦時供出し

空しく十餘年を

経たり今ここに

昭和卅年十一月

龍瑞僧正新に之

を鑄むとし予に

歌を詠して之を

聖観世音菩薩の

寶前に捧くその

歌に曰く

わたつみの

そこゆくうをの

ひれにさへ

ひひけこのかね

のりのみために

(注)それ以外の文字なし

秋 艸 道 人



會
正
靜
空



會 津 八 一 歌 碑

所在地 福岡県福岡市城南区片江南町 4-41-12 文学碑公園内

かすかのおおしてるつきの

ほからかに

あきのゆふへと

なりにけるかも

秋艸道人

碑陰

文字なし

會津八一歌碑

所在地 福岡県福岡市城南区北江町中島二丁目 文豪碑公園内

かすかのにらみたるもの

はかふかに

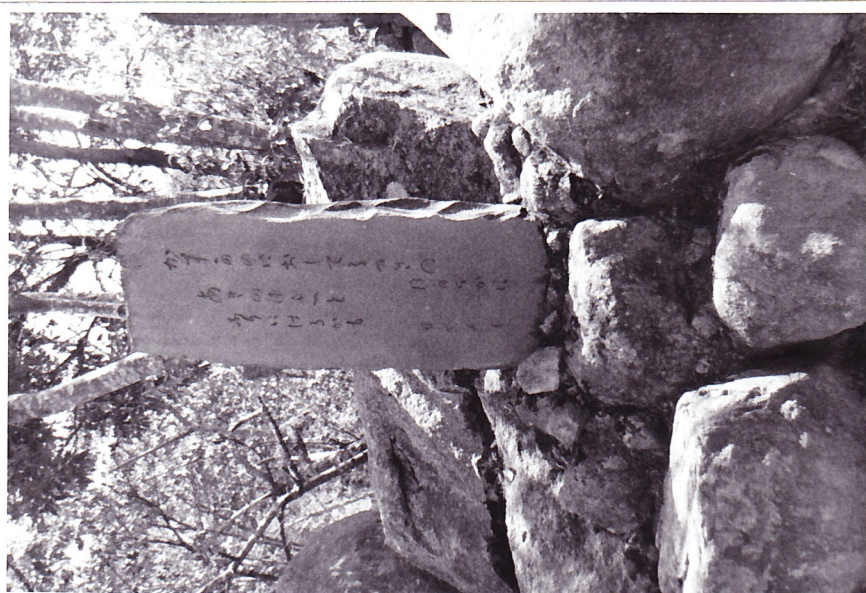
あまのゆめを

なりはけるかも

歌人 道入

碑文

文字を



相葉有流句碑

所在地 群馬県多野郡土居町赤城大洞 四本榎の句碑の道

生きて

芽吹きて

風刺の

楯

雲霧

丸有流

説明本碑

「生きて」は「生きては」の略で「生きては」は「生きては」の略

「芽吹きて」は「芽吹きては」の略で「芽吹きては」は「芽吹きては」の略

左側面 句の解説（有流）

裏面 昭和四十五年

石人俳句会

群馬大学教育学部 教育有志 題之

地盤

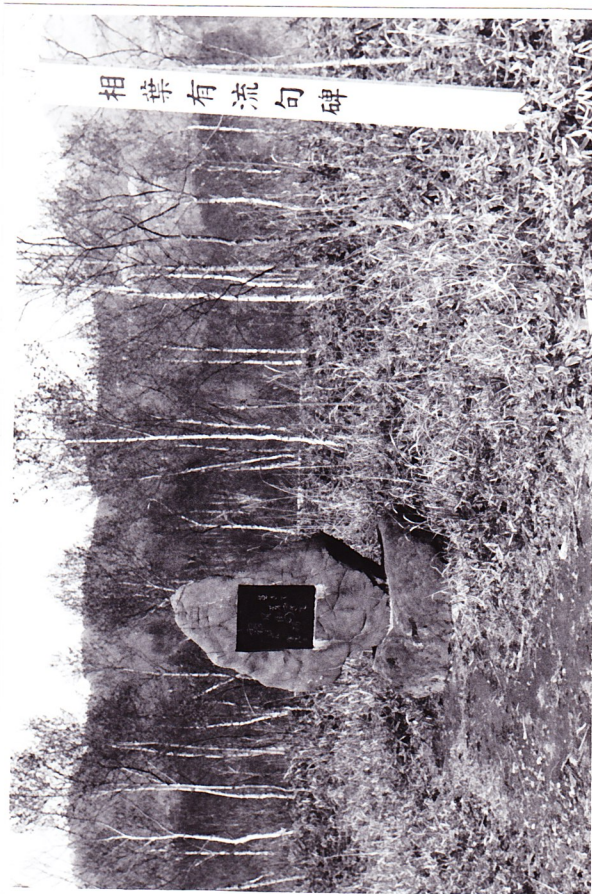
相葉有流 本名 伸 明治四十年

三月二十日 土居町に生まれる

東京文理大国史学科卒業

昭和二十一年三月 東京府立大

文学部国文学科卒業



相葉有流句碑

所在地 群馬県勢多郡富士見村赤城大洞 四本檜平の句碑の道

生 きて

芽吹きて

風倒の

檜

霧ま

みれ

有流

碑陰

石人俳句会

群馬大学教育学部

教官有志

昭和 49 年 5 月

説明木碑

正 面 相 葉 有 流 句 碑

右側面 生きて芽吹きて風倒(ふうとう)の檜(なら)霧まみれ

左側面 句の解説(略)

裏 面 昭和 49 年 5 月 石 人 俳 句 会

群馬大学教育学部教官有志 建之

略歴

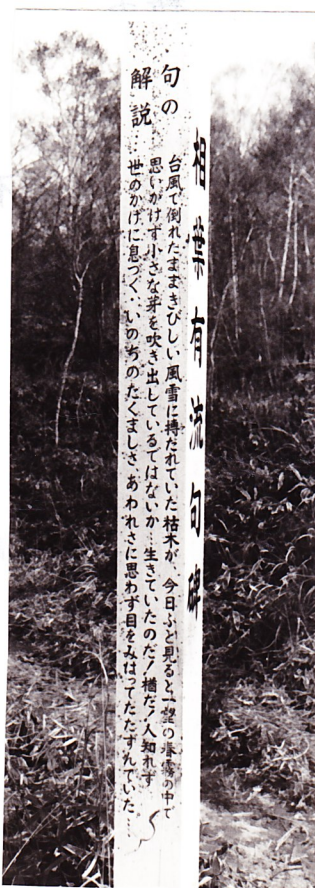
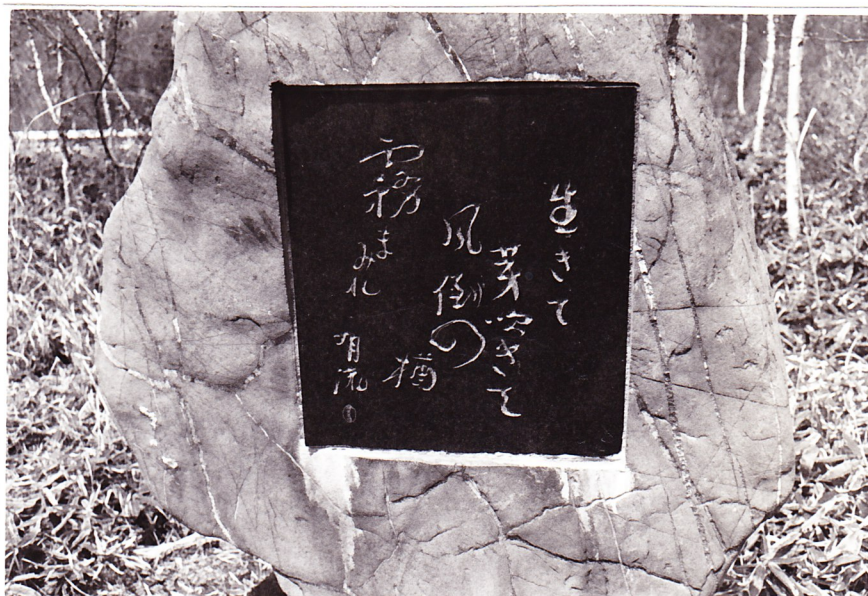
相葉有流 本名 伸 明治 40 年 7 月 29 日千葉市に生まれる 東京文理大国史学科

卒業 平成 5 年 6 月 6 日歿す 享年 85 歳 法名 鳳翔院有流日伸大居士



相葉有流句碑

林



句の
台風に倒れたままきびしい風雪に持たれて枯木が、今日ふと見ると望みの森の中
思いがけず小さな芽を吹き出しているではないか。生きていたのだ。樹の人知れず
解説 世のかげに思づくいのちのたぐいましさをあわれさに思わず目をみはったすれいた

相葉有流句碑



赤城山々頂 ← (手前は大沼)

相葉有流句碑

所在地 群馬県利根郡みなかみ町猿ヶ京 175 三国路紀行文学館庭内

三 國 路 や

鯉飼えば

雪音もなし

有流

碑陰

相葉有流 「石人」主宰
文 学 博 士

昭和 61 年 5 月 18 日

石人連衆之を建つ

協賛 猿ヶ京ホテル社長

持谷順一郎

三国路紀行文学館長

持谷 靖子

説明木碑

正 面 相 葉 有 流 猿ヶ京 句 碑

左側面 三国路や鯉飼えば雪音もなし 有流

右側面 昭和 61 年 5 月 18 日建立 建立者 俳誌「石人」

協 賛 猿ヶ京ホテル 社長 持谷順一郎

三国路紀行文学館長 持谷 靖子



相葉存流 石人主事
 昭和六十七年五月十八日
 在大連旅次 文筆博士
 相葉存流 文筆博士



相葉有流句碑

所在地 群馬県利根郡新治町猿ヶ京二五 三國路紀行文芸館内

三 國 路 や

鯉 銅 文 化

到 昔 も な し

志 流

碑 陰

相葉有流

文学博士

昭和三年五月六日

石人連衆之を建つ

城 野 本 主 仁 建

三 國 路 紀 行 文 芸 館

建 立

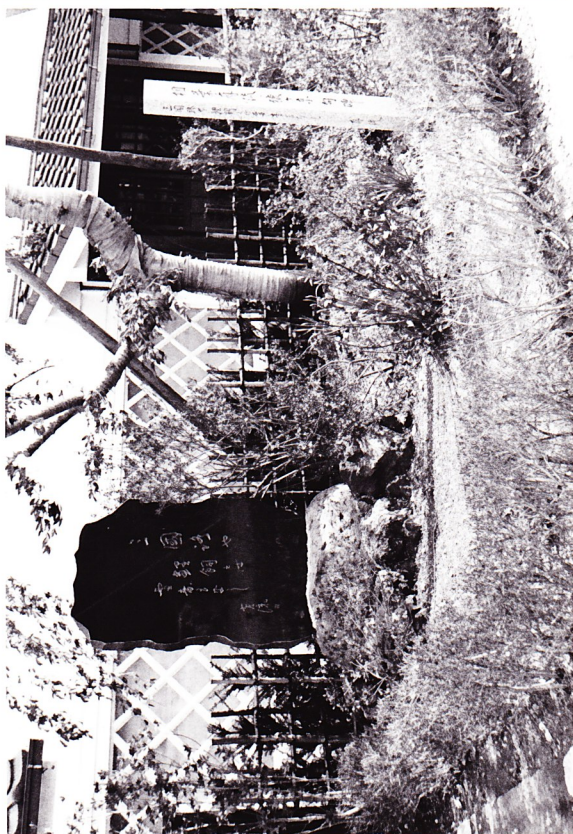
副 碑

正 面 相葉有流 猿ヶ京 句 碑

背 面 三 國 路 紀 行 文 芸 館 句 碑

右 側 面 昭和三年五月六日建立 建立者 俳諧 石 人

樹 實 猿ヶ京市外 社長 持得 堀 一郎
三 國 路 紀 行 文 芸 館 長 持 谷 増 子



相葉清流句碑

所在地 群馬県前橋市千代田町三丁目 既橋駅

約 100 年

碑は、かつて千代田の大きな礎とな
り町を象徴したものであります。
維新後、当時の千代田製米は、この広瀬川の豊かな
土を源とした機械製米や熱米に発展し、その製米
外に輸出され、前橋生米の名は世界に知られま
した。たが、広瀬川の河畔緑地の整備とあわせて
馬有流先生の「前橋残影」の句とともに、その歴
史を残すこととした。

昭和56年9月 前橋市

（順不同）
（会）（略）

